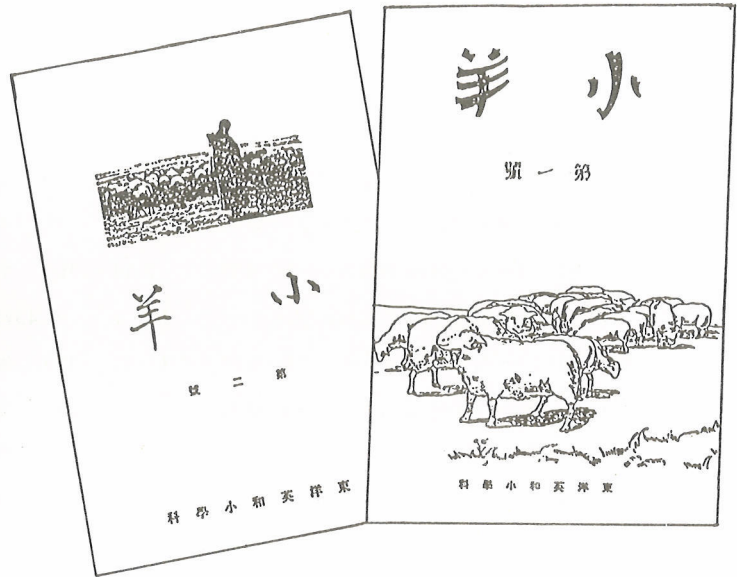


史料室だより No.28

東洋英和女学院史料室委員会
発行 1987年3月13日

小羊の泉

元小学部 部長 榎村 辨市



「小羊第1号」は昭和10年1月に、「小羊第2号」は同年12月に刊行された。左は昨年夏小学部を訪れられたお元気な榎村先生。

東洋英和が創立50周年を迎えて、近代的なバラシイ教育の殿堂を完成したのは、1933年（昭和8年）のことであった。学園を挙げて喜びと感謝に湧いて各種の行事が催され、それぞれ新しい目標に向かって出発した。

その年の九月、小学部6年生の児童有志の提案で「一日一善・一日一銭」の感謝の献金を始めることになった。

一日に必ず一つ善事を、如何に細やかな平凡な事でも、それと共に毎日〔一円〕の献金を神さま

にお献げする趣旨の運動の実行である。

「一日一善」の運動は大正の初期に全国の青年層に呼びかけた、修養団の盟主蓮沼門三の提唱によるもので、自己の修養と共に隣人愛の善行を奨めた運動であった。

「一日一銭」は更にそれを形に現して、神に感謝し人を愛するために、レプター一枚を、東洋英和の建学の精神として承継がれた〔敬神奉仕〕の小さい芽生でもある。

東洋英和が創立50周年を迎え、近江ミッショ

ンのヴォーリス氏の斬新な設計を、竹中工務店の巧緻な技工よっての施工で美事に竣工した新校舎は鳥居坂上の瀟洒な名所となって出現した。加えて内部の行届いた設備教具用品の万端に關係者一同は新な決意を持ち半世紀の学校経営に立ち向った。

従来の小学部はあまりにもお粗末な部屋での学習であった。とりわけ建築中は、旧の幼稚園舎を三つ四つに区切つての仮教室、それでもよく辛棒したものであった。

新校舎は全く夢の殿堂のように思われた。まず小学校独自の玄関・専用の小講堂・ここに入ると神さまのお声が聞えてくるような感じさえた。職員室には立派な金庫まで備えつけられ、主事の部屋もコーナを区切つて別室に勿体ないような贅沢な思いさえた。教室は一階と二階に新しいモダンな机腰掛に、一人一人のロッカー付。玄関ホールの際にはお附添の伴待部屋その奥には職員の休養室として畳敷の小部屋まであった。

児童たちもよろこんだ、これまでの環境とは余りにも異いすぎるので戸惑いさえ見られたがきわだつて明るく朗らかに毎日の学習にはげんだ。

「一日一善・一日一銭」は彼等の自発的な善意の提案であり運動である。当時小学部の児童総数は200余名（従来1学年30名の6学級を35名までとし）、それに別科スペシャルクラスが若干加わつて220名余になつたこともあつた。一日一銭 全校では一日おおよそ2円余、一カ月で50円、一カ年500円を目標として、貧しい人々を助け、病人を慰め、又時折おりの救済恤兵の費などに充てることにした。この運動の趣旨については学校側からも保護者に対して詳細の経過を報告して協力方を求めた。

下記に昭和12年度の小羊会報告を記載してその活動の大要を紹介することにしよう。

私たち小羊会と日曜学校は協力して、自分たちの力で少しでも、よい学校・楽しい学校にしたいと努めて来ました。外に向つてもささやかながら私たちの力で出来る仕事をいろいろ手伝わせていただきました。次に昭和12年の間に行つたお仕事の報告をいたします。

昭和12年4月16日 150円

青森県下北郡田名部教会井戸掘費用
として寄附（別項記事参照）

（以下略表記）

6. 6	¥100	子供の日献金	日曜学校局
7. 10	100	日本メソジスト教会中央資金	
7. 10	35	愛清館・典望館キャンプのため	
7. 14	100	北支出征兵士慰問のため	
10. 1	98.43	陸軍省へ恤兵金として	
11. 21	120	麻布区内出征兵士家庭慰問	
12. 17	150	傷病兵の白襦袢寄附	
12. 24	400	各社会福祉事業へのクリスマス贈物	以上

小羊の泉

前掲の青森県下北郡田名部町には古くから日本メソジスト教会の小さな伝道所があつた。土地柄か教勢は容易に振わない。代々の牧師の熱意も苦心実を結ぶまでにはいたらない。それに加えて日常生活にも大変な困難な問題がある。それは日々の生活に無くてはならぬ飲用水のことで、近くには飲用に適した水源がなく少し雨が降れば雨水の泥水を、ことに冬の雪期に入ると雪解の汚水を使用する程で、ちゃんとした井戸を掘る資金も気力もなく、近隣の人々の健康が案ぜられると。

日本メソジスト教会本部の真鍋頼一社会局長は幾度もその悲情を訴えた。東京からは遠くはなれた青森の果てのことであるが、小羊会はその話を

聞いてお手伝いすることになった。

金150円当時としては相当の額であった。真鍋局長を通して実行に移された。

『小羊の泉』は最極の地 田名部教会の生命の泉となつて夏枯れの渇水期も冬の雪解けにも常に清らかに湧き出でて40年多くの人々をうるおしたのである。

附記

青森県むつ市田名部(小川町2-7-5)

田名部教会 田名部幼稚園

淋しい教会に小さい幼稚園が今も続けられていると近況をお尋ねし度いと思っています。 樫 村

小 学 科 の 頃

池田 明子(旧姓西原)

昭和17年(1942年) 高等女学科卒

何時の間にか年月が経ち小学科に入学したのは半世紀以上も前の事になってしまいました。

私が1年生になったのは昭和6年でした。その当時の校舎は明治33年に建築されたと言う木造でした。表の通りから門を入るとだらだら坂を下りて校舎がありました。はっきりとは覚えていませんが、校舎の中は暗いと言う記憶が残っています。私は入学前から身体は小さく弱い子供でしたので、入学式も出席出来ず1週間後に初めて登校しました。

1年の時の受持は植松千年先生でそれはそれはお優しいお母様先生でした。何時もにこにことお目は細く笑っていらっしゃいました。

お召物はお着物で紺のお袴を付けて体操の時はたすきをなさいます。その頃国語は読み方書き方話し方の3課目に分かれていました。

書き方は先生が黒板へ白墨で力を入れる所は「ウン」と強い声で、伸す所は「ウー」と長く、又止める所は「ウン」とおっしゃり乍ら大きく書いて教えて下さいました。又先生のお話を聞く時は両手を握り机の両端に置き肘と脊を伸ばすのです。それが良い姿勢なのです。

	1	2	2	4
月	サンジュツ	ヨミカタ	タイソウ	セイショ
火	サンジュツ	オウタ	ヨミカタ	カキカタ
水	サンジュツ	ヨミカタ	シュウシン	ハナシカタ
木	サンジュツ	ヨミカタ	タイソウ	ツグワ
金	サンジュツ	オウタ	ヨミカタ	シュコウ

これが1年の時間割です。算術は大きなソロバンがありその球は下へ落ちない様に棒には馬の毛でしょうか付いていました。その頃の図画は教科書の絵を真似て画くので、私が始めて画いた絵は松の木でした。大変に難しくなかなか画けませんでした。

お歌は今村寿々代先生で太っていられて丸いお顔の髪は耳かくしに結って大変にお声の綺麗な先生でした。

1年の1学期はクラスで百日咳が流行しました。私も重い百日咳に掛り学校も6月半ばより夏休みになるまで登校出来ませんでした。或る日植松先生がお見舞に来て下さいました。先生はキューピーさんにクレーブペーパーで洋服を着せ帽子を被せて持って来て下さいました。何人位お休みして

いましたでしょうか、一人一人の家へいらして下さったのです。私が頂いたのは、黄緑と紫の洋服を着ていました。嬉しくて絵に画いたので色まで覚えてます。

秋の遠足は場所は忘れましたがお芋掘りでした。1年生なので殆どのお友達がお付添が一緒に行きました。私は母が付いて行ってくれました。

1年の秋頃明治の校舎を建て替える事になり裏の幼稚園の建物が仮の校舎となりました。仮の校舎の時は毎朝の礼拝はお隣の麻布教会で小学科から女学校まで一緒でした。前方は低い柵が巡らせてあり其の中は赤い絨毯が敷いてあり奥の方は一段と高くなっていました。

クリスマスには毎年学芸会があり楽しみでした。1年の時は私は5人の博士の1人になりました。服装は忘れましたが頭は白い布とボール紙に銀紙を張った輪を被り5人次々と出て来て一緒に台詞を言い終ったら頷くのです。

私は入学当時1メートルと1センチの身長でしたので12月になっても一番小さくそれが張り切って大きく頷いたからでしょうか皆が笑いました。又、広山さんが「ままごと」と云うダンスをソロで踊られてとてもお上手で私は感心して見ていました。

2年も受持は植松先生でした。2年からは英語の授業が始まり先生は光明照子先生でした。大学を出られたばかりでお若くでもやはりお着物にお袴姿でした。

その5月のよいお天気の日でしたお勉強を止めて歩いて子供の足で15分位の所にあるクラスの大矢知さんのお家まで遠足です。御門は記憶にないのですがお庭の広い事にはそれはそれは吃驚してしまいました。芝生の広い中に通路があり明治神宮の内園の様な感じでした。少し高い所には大

きな鯉登りが上っていました。我が家の狭い庭との余りの違いに公園かと思った程でした。その時の驚きは現在当時の事を話し合うと、どのお友達も同感で忘れられないとの事です。そして全員おすしの折詰を頂いて帰って来ました。

5月の第2日曜日の母の日に日本青年館で母の日の催しがありました。新校舎建設の為の基金にとの事かも知れませんがはっきりとは分かりません。英和で礼拝をすませ母が迎えに来て一緒に日本青年館へ行きました。

師範科の北田さん(後に小学科の先生になられた)がお母様役で着物姿。私は母の手製の白のワンピース式の寝巻で舞台の右手から左手へ手を繋がれて歩いて通るといふ寝室へ行く台詞なしのシーンでした。又違う場面では朝登校するシーンで低い門があり、上級生と私の2人がランドセルを背負い北田さんのお母様役に手を上げています。始めは舞台は暗く、ライトが付いて人物が浮き上り人物は身動きしないで居り暫らくしてライトが消えるのです。他はどの様な場面があったのか劇があったのか一つも覚えていませんが今村先生の演出された事の様です。これに出る為に赤い富士絹のワンピースを買ってもらい嬉しかったのを覚えています。

3年の受持は寺本先生でやはりお母様先生でした。

6月には待ちに待った新校舎が落成しました。設計はカナダの方で立派な上等な建築でした。父は建築家でしたので感心して居りました。新校舎の壁の匂いの心地よさがまだ残って居りわくわくして登校したのが思い出されます。

今度は小学科にも講堂が出来毎朝の礼拝は小学生だけでした。女学校とは大講堂とその下の食堂で繋がっていましたが別棟になって居り1・2階は

小学科、3階は師範科でした。1階は1・2・3年生の教室、職員室、歯科治療室、送り迎えの方の待合室、2階は4・5・6年の教室、図工お裁縫室、図書室、そして雨天体操場、大講堂へと続いています。明治の校舎はお手洗いが恐い様でしたが、新校舎は明るくて気持がよく教室での毎日本当に楽しい物でした。キャフテリアが出来てお昼の食事は一段と楽しみでした。キャフテリアが出来ると当り前もって食物の好みを全校生徒からアンケートが集められていました。厨房も立派で大きな四角なお釜がオープンで焚かれ美味しい御飯とおかずが一皿に盛り合せてありました。11時半頃に小学生の食事が始まりその後女学生と入れ替りでした。

旧校舎の時は大きな常緑樹の生えた上の運動場には遊動円木とシーソーがありました。新校舎になり小学校校舎の横にブランコ、すべり台、ジャングルジムも出来ました。ブランコには2人乗りをよくして思い切り漕ぎました。

送り迎えの方の待合室は細長い小さい部屋で冬は火鉢があったらしく朝生徒さんを送って来て授業の終る迄待っている間に鰻(コテ)まで持って来て縫い物をしていた女中さんもありましたとか。

この年に体操服が新しく決りました。ブラウスは衿と袖に黄色が付き、キュロットの鬘スカートをボタンでブラウスに止めるスタイルでモダンでした。

2学期の9月には寺本先生がお止めになりお若いお元気な加藤うた枝先生に替りました。先生は生徒が余り活発でないので体操の時間には2チームに分れデッドボールをする事を取り入れられました。萩原さん、和田寿子さん、倉数さん(空襲で亡くなりました)が大変強くきついボールが弱い者目掛けて飛んで来ます。私は何時も逃げてばかりいました。今短大のあります所がまだお隣り

のお家で大きな椎の木があり枝は英和の方へも出ていましたので、秋になると椎の実が落ちました。風の強い日の翌朝は少し早目に登校しハンケチへ実を拾いました。焦茶のつやのある可愛い実で沢山拾えるとポケットが重い程でした。家へ帰ってから火鉢の火でお茶焙じて炒って食べると少し甘くて美味しかったです。

4年生になりますとお裁縫の時間が加わりました。先生は田中悦子先生で色の白い丸いお顔の優しい先生でした。私は手芸が好きでお裁縫の時間は待ち遠しく楽しみでした。図画手工も関猛先生に替りました。ニコニコなさり楽しい授業でした。唱歌は津川みち子先生になりました。小講堂で歌は勿論ですが聴音もよく教えて頂きました。

学校から三河台へ行くまでの右側に麻布区役所の綺麗な新しい建物が出来ていました。

4月29日の天長節の時だったのでしょうかお友達と帰る時、区役所の玄関に大きな大きな日の丸の旗が2本出ていました。その日は良いお天気で風は大分強かったのでしょう。日の丸の旗は風に靡いていました。その旗の角の所を持つと風が孕んで身体が少しふわっと浮くのです。その気持ちのよい事、お友達と2人でキャアキャアと言い乍ら空中浮遊をしていましたら、秋山先生がお通りになりました。先生はお友達のお母様と英和で同級生でいられたのでニコニコして「まあまあ」位言われた様でした。翌日礼拝の終りに主任の櫻村先生が「昨日区役所の旗にぶら下って遊んでいた人があったそうですその様な事をしない様に」と注意されました。名前こそ言われませんでしたけれど、いけない事をしたのです。私は1日中沈んで居りました。

秋の運動会には「お山のお猿」のダンスをしました。指導は櫻村先生です。先生は石井猿さんの

お弟子でいられるとの事で、その振付は大変にお上手で「しな」を作って踊られるお姿は今でも目に浮びます。

お山のお猿は毬が好き
てんてん毬つきゃ踊り出す
ほんにお猿は道化者
赤いべべ着て傘さして
お酒落猿さん毬つけば
お山の月も笑うだろ

と言う歌詞でした。

11月6日にはいよいよ創立50周年でお祝は3日間続きました。

東伏見宮妃殿下はお若い時英和で学ばれた事がおありになりましたとか、そのご縁で学芸会にお見えになりました。明治時代の劇で1年上の波野さん(現松本幸四郎母君)が御自分の髪で髷ボウと鬢ビシの張らない日本髪を結って出られ大変お似合でした。

記念品はペーパーナイフと文鎮で今も大切にしています。

校歌が新しく一流の先生方の作詞作曲で出来小学生も一生懸命練習しました。北原白秋先生は作詞をなさる為に英和にお見えになったとの事です。私は詩も曲も大好きで昨年も卒業40周年のクラス会で歌った時何故か涙が溢れて仕方ありませんでした。

何時の頃か忘れましたが雨天体操場で午前中の休み時間に網に入っているバスケットボールの紐を持ってぐるぐると廻ったのです。目が廻って床も壁も天井も廻っていました。お昼の食事は食欲が全くなく食べられません。私の顔は真青だったらしいのです。女学校のお玄関の隣りにある休養室へ連れて行かれ赤いブドウ酒を頂いて午後の授業は休み寝ていました。女学校の鶴木先生(空襲で亡くなりました)が優しい言葉を掛けて下さい

ました。女学校1年の姉の授業の終るのを待って一緒に帰りました。

毎朝の礼拝に先立ちお教室の出口にリーダー(級長)が小さな籠を持って立ち皆は通り乍ら1銭づつ献金をします。1年で150円以上になりクリスマスに施設へ贈ります。

2年の3学期に大矢知さんがお父様の転勤でロンドンへいかれて4年の夏に日本へ帰って見えました。2学期から4年生に戻られる処を空席がなく、3年には空席があるとの事で2学期は3年生に、3学期には早くも空が出来て私達の4年に帰って見えました。

5年生になり受持は荒木淑子先生になりました。お若い優しい先生で普段はお洋服を召していらっしゃいました。

5年生の時と思いますが、お昼休みを少し早く切り上げ、午後の5時間目の前の30分位を全員小講堂に集り月曜から金曜まで毎日違うお勉強がありました。その中の一つに映画の日があり、その曜日のくるのが大変楽しみでした。関先生の作られた漫画映画もありましたし、短編の劇映画の時も、又同級生のお父様のヨーロッパ旅行された時の物もありました。

学校から三河台の電車通りまでの道路にはガス燈がまだ残してありました。明治の初期の物と思われませんが、劇の練習などで遅く帰る時には区の職員の人でしょうか、先に小さな炎の付いた長い棒で一つ一つ付けて歩いて居りました。その火の色は青白く綺麗でした。又三河台から英和の校舎の前まで水撒きをしている小父さんがいました。坊主頭で目の大きな人で、何か気の毒な人の様で、英和で面倒を見て上げていた様でした。大八車の上に箱が付いており、それに水を入れて後から幾筋もの水が流れ落ちる様になっていて、三河台か

ら英和の前までを往復して居りました。

3学期の2月26日は雪の日でした。登校しますと、生徒には訳は分かりませんでした。授業もそこそこに家に早く帰る様に言われました。その時が2・26事件で、それからは緊張した2・3日でした。

6年の先生は持ち上りで荒木先生でした。お天気のよい日は毎朝運動場でラジオ体操をしました。生徒が並んでいる左前に小学科の門があるので体操にも間に合わずに遅刻すると全員に見られてしまうのです。決って車で送られて来て幾度も遅刻している下級生もありました。

運動場で並んだ時前に見える道路の向いのお家は高い高い石垣の上に白いタイルの塀があり大きなお屋敷でした。そのお家の庭には孔雀が放し飼いになっており、るり色の羽が美しく木に止っているのを何度か2階の教室から見ました。

夏休みに入ると夏季学校があります。前年も行われましたが、私は参加しませんでしたので小学科最後年にねだって私も参加しました。御殿場にあります1年下の有田さんのお別荘の対山荘へ、私は始めて家族と別れて過す8日間です。藤棚の下から大きく富士山が見えて素晴らしいお家でした。城山に登り、川で素足になって遊び、花火大会もありました。中の2日は汽車に乗り沼津へ海水浴に行きました。昼食は大きなお握りと玉子お食後に桃でした。大きな桃でとても固いのです。私はそれまで桃はお腹を悪くするからと食べられなかったのを海へ入りお腹は冷えているし、心配し乍ら皆と一緒に食べてしまいました。バスで長尾峠へ行った時は、行きにバスに酔ってしまい、途中で荒木先生もバスを下りて下さり登り道を随分歩きました。先生には申し訳ない事を致しました。やっとなで

皆と会えた時は芦の湖も見え気持ちのよい素晴らしい景色でした。夜のお化大会は恐しくて楽しい物でした。夏季学校宛に家族から始めての手紙をもらい嬉しい気持ちでした。瞬間の8日間でしたが得る処の沢山ある楽しい日々でした。

図書室にはアメリカから来た可愛いお人形さんが居りました。コートも着替も持っていたのでしょう。あのお人形さんは今矢張り小学科の何所かに居るのでしょうか。

いよいよ3学期になりもうすぐ小学科も卒業です。3学期にはグループ毎で劇をする事になり、私達は6人で白雪姫をしました。演出から総て生徒達です。中沢さんと私は小人になり赤い洋服に三角帽子の衣装でした。組一番の出来映えて卒業の謝恩会で再びすることになりました。小講堂の椅子を選び出しテーブルも入れ、お菓子も並び父兄も出席しての楽しい会でした。

卒業式は式後雨天体操場で先生と6年生39名、別科10名の写真があるだけで記憶はないのです。女学生になっても同じ学校なので何時でも先生にお目に掛かれますのに、職員室の前で荒木先生とのお別れが悲しく泣いてしまいました。

先生方には一方ならぬお世話になり、又お導きを頂き誠に感謝致して居ります。昨年秋神谷(大矢知)さんのお宅で小学科のクラス会を卒業以来始めて致しました。植松先生には御出席頂けませんでした。櫻村先生、加藤先生、荒木先生御出席下さり御三方共お若くお元気で懐かしい小学生の心に戻った1日でした。

小学1年生の時はお脊のお高いミス・ハミルトンが大変恐く思われましたが、創立80周年の折カナダからお見えになり、お目に掛る事が出来ました。あの小さかった私を30年近く経ってまだ覚えていて下さったのです。感激致しました。

懐かしい小学科の教室で30年後娘が学ばせて
頂くとは予想もしない事でした。英和に
学べました事感謝で一杯でございます。

指組みて食前の感謝我はなす
小女の日より付きし習ひに
校庭に夜風は椎を落せりと
その実拾へり遠き日のごと
(昭和58年3月記)



昭和12年3月小学科卒業式のあとで記念撮影。前列右から
2人目が池田明子さん。

一 編集後記 一 史料室だより28号をお届けします。小学部では、児童会を小羊会と呼んで、奉仕活動を行っています。昭和8年9月、6年生から、『「一日一銭・一日一善」を感謝として捧げましょうとの提案で、自発的な善意の運動である。』と樫村辨市先生は述べておられます。

昭和10年発行の「小羊第1号」によると、「よい学校にする為に、外に向かっても、ささやかながらもわたしたちにできる仕事をいろいろ手伝わせて頂きました。」とあります。

昭和8年が6年生ならば、今は何人かの孫に囲まれた67才になられる方々でしょう。

やがて日本は、戦争への歩みへと進んでいきますが、その頃小学部で学ばれた池田明子さん(旧姓西原)が、まるで絵を見るかのように、当時の小学部をスケッチされておられます。

本号は、昭和10年頃の様子をお二方から寄せられたものを特集いたしました。(木口、張替)